

スマートフォンアプリによるセルフ貸出

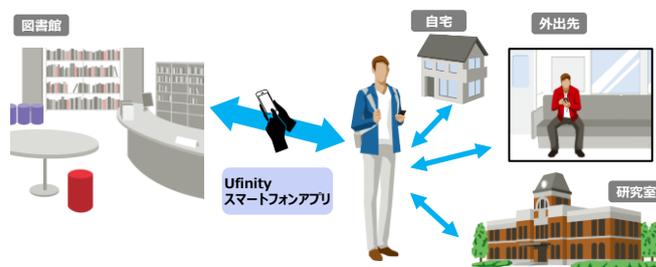
スマートフォンは大学生のライフスタイルに欠かせない存在となっています。iLiswave-Jでは、利用者サービスの向上を目指し、スマートフォンアプリを提供しております。スマートフォンアプリでは、蔵書検索、新着案内、貸出ランキング、利用者へのプッシュ通知に加えて、利用者自身によるアプリでのセルフ貸出機能を提供しております。

スマートフォンアプリ概要

Ufinityスマートフォンアプリは、iLiswave-JのOPAC機能をスマートフォンで利用するサービスです。

iLiswave-Jを導入している図書館の目録データベースを検索できるほか、新着資料や貸出ランキングなども見ることができます。これらの機能は、スマートフォンのブラウザでも実現可能ですが、利用者へのお知らせを確実に届けるため、プッシュ通知に対応している点もポイントです。

- 蔵書検索 目録データベースの検索
- カメラ検索 スマートフォン搭載カメラで検索
- 新着案内 新着資料を表示
- 貸出ランキング 貸出資料をランキング形式で表示
- マイスペース 図書館利用状況の確認
- プッシュ通知 図書館からのお知らせ通知



スマートフォンアプリによるセルフ貸出機能

セルフ貸出機能は図書館カウンターや自動貸出装置にて実施していた資料の貸出処理を、利用者が利用者自身のスマートフォンにてその場で実施することができます。カウンターへ並ぶことなく、利用者自身で貸出処理が行え、貸出処理が完了すると、セキュリティゲートを通過できるようになります。



スマートフォンアプリによるセルフ貸出のメリット

利用者がセルフ貸出を行うことにより、カウンター業務の効率化を実現

貸出作業はカウンター業務の中で割合を多く占めるものの、ピークにばらつきがあり、職員間での業務の割り振りが難しいといった課題が解消されます。

自動貸出機導入に比べ、コストの削減と利便性の向上

複数フロアがある場合や、利用者数が多い場合など複数の自動貸出機を整備することに比べ、低コストで導入が可能なことや、利用者にとっても自分のスマートフォンで簡単に貸出処理が行えることで利用者の利便性が向上します。

貸出サービス業務の負荷軽減によって、教育・研究支援サービスへのシフト

職員にとっては貸出サービス業務の軽減により生まれたリソースを教育・研究支援サービスへシフトすることができます。

セルフ貸出機能利用イメージ

アプリケーションの貸出アイコンからカメラを起動し、本に貼付されたバーコードを読み込んで表示された本の情報画面にある貸出ボタンをタップすることにより、貸出処理を行います。貸出処理が完了すると返却期限日が表示されます。

■ Point

利用者自身が資料の貸出を行うセルフ貸出機能となります。

＜前提＞ 貸出の有無はBDSにて行います。その際ICタグの情報を読み込み、図書館システムと連携してチェックを行います。



導入事例

スマートフォンアプリによるセルフ貸出機能を導入いただいたお客様の声を紹介させていただきます。

導入効果

- 新たなハードウェアを導入することなくシステムの構築により対応 → 多くの学生が所持するスマートフォンを最大限利用
- 機械化によるカウンター業務の削減 → 対人サービスにリソースをシフト
- 図書館外のラーニング commons などの共用部にも図書や資料を配架 → 大学図書館の新たなスタンダードへ

※詳しくは弊社担当営業/SEまでお問い合わせください。

お問い合わせ先

富士通Japan株式会社

担当 : Public&Education事業本部

ビジネス変革室 大学戦略担当

連絡先 : fjj-bunkyo-ilisuniv@dl.jp.fujitsu.com